各　位

2021 年1月 17 日
株式会社 山と溪谷社
https://www.yamakei.co.jp/

謎だらけの生物、きのこの真実に迫る！
伝説の〝きのこ博士“が残した魅惑の「きのこエッセイ」

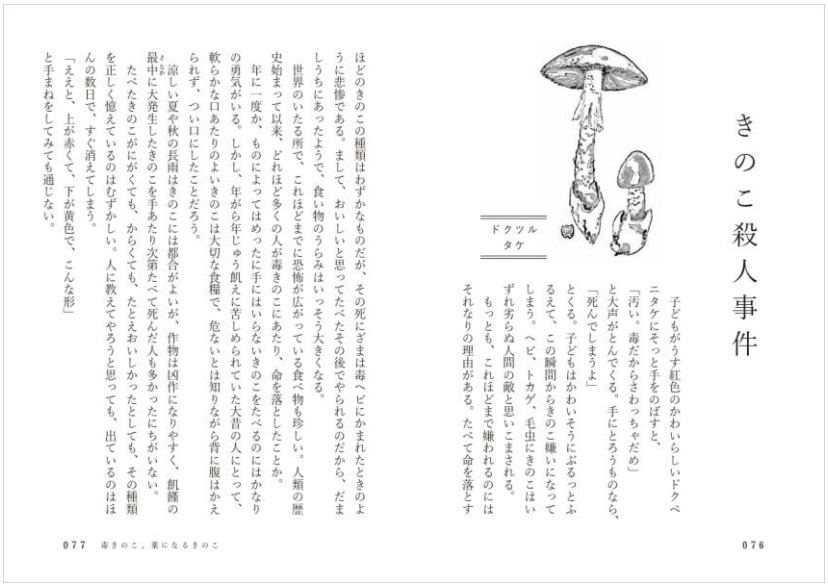
インプレスグループで山岳・自然分野のメディア事業を手がける株式会社山と溪谷社（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：二宮宏文）は、ヤマケイ文庫『きのこの自然誌』（小川真／著）を刊行いたしました。

「世界中の誰よりもきのこに詳しかった〝伝説のきのこ博士“の名著」
藤井一至氏（土の研究者、『土　地球最後の謎』著者）推薦！

「地上に平和をもたらしたのは、きのこだったのだ」
小倉ヒラク氏（発酵デザイナー）推薦！

樹の上でひそやかに光るきのこ、ローマ時代に起こったきのこ毒殺人事件、ナメクジとシマリスは胞子の運び屋…世界中のきのこを取り上げながら、きのこの不思議な生き方と生態系での重要な役割、きのこと人が繰り広げてきた悲喜こもごもについて語ります。著者が生涯をかけて探求し、伝え続けた菌類・きのこの不思議な魅力が詰まった一冊です。

著者の小川真氏は、森林のノーベル賞といわれる「ユフロ学術賞」を受賞した菌類の研究者であり、きのこ学の第一人者です。つくばの研究所に向かって下駄ばきで自転車をこぎ、筆をとってはニコニコときのこの絵を描き、時には人にあげて喜ばれていたというエピソードもあり、世界的な研究者であるとともにユニークな人柄が知られていました。本書は、2021 年に亡くなった著者が、一般読者向けに書いた数少ないエッセイであり、著者初めての文庫化になります。



きのこ殺人事件

ドクツルタケ

子どもがうす紅色のかわいらしいドクベニタケにそっと手をのばすと、
「汚い。毒だからさわっちゃだめ」
と大声がとんでくる。手にとろうものなら、
「死んでしまうよ」
とくる。子どもはかわいそうにぶるっとふるえて、この瞬間からきのこ嫌いになってしまう。ヘビ、トカゲ、毛虫にきのこはいずれ劣らぬ人間の敵と思いこまされる。
もっとも、これほどまで嫌われるのにはそれなりの理由がある。たべて命を落とすほどのきのこの種類はわずかなものだが、その死にざまは毒ヘビにかまれたときのように悲惨である。まして、おいしいと思ってたべたその後でやられるのだから、だましうちにあったようで、食い物のうらみはいっそう大きくなる。
世界のいたる所で、これほどまでに恐怖が広がっている食べ物も珍しい。人類の歴史始まって以来、どれほど多くの人が毒きのこにあたり、命を落としたことか。
年に一度か、ものによってはめったに手にはいらないきのこをたべるのにはかなりの勇気がいる。しかし、年から年じゅう飢えに苦しめられていた大昔の人にとって、軟らかな口あたりのよいきのこは大切な食糧で、危ないとは知りながら背に腹はかえられず、ついロにしたことだろう。
涼しい夏や秋の長雨はきのこには都合がよいが、作物は凶作になりやすく、飢饉の最中に大発生したきのこを手あたり次第たべて死んだ人も多かったにちがいない。
たべたきのこがにがくても、からくても、たとえおいしかったとしても、その種類を正しく憶えているのはむずかしい。人に教えてもらうと思っても、出ているのはほんの数日で、すぐ消えてしまう。
「ええと、上が赤くて、下が黄色で、こんな形」
と手まねをしてみても通じない。

076

077　毒きのこ、薬になるきのこ

お腹を空かしたチップモンク

ツチカブリ

「今日もライス・ボールか」
とポブがウインクする。ライス・ボールとはわが日本のおにぎりのことである。アメリカのカスケード山脈の麓にあるダグラスファー林が私たちの仕事場で、毎週きのこを調べに通っていた頃の話である。大陸の五月の空はぬけるほどに青く、高さ七〇メートルをこす大木が天をついて立ち、しんと静まりかえった森のなかで虫の羽音だけがうなっている。陽だまりの大きな切り株に腰を下ろして、弁当をひらくと、きまって横のブルー・ベリーのしげみがかさこそと鳴る。
見ると、小さな毛糸玉のような北米大陸のシマリス、チップモンクが口をもぐもぐさせながら、細い枝でブランコをしている。春先のことでえさもないのか、パン屑をひろいに来たらしい。このあたりにはチンカピンというクリの一種の硬い実とマツの実以外およそリスのえさになりそうなものはない。この大森林地帯は十二月初めから四月末まで雪にとざされているので、冬眠からさめたシマリスのおなかはペコペコに空っているはずである。
雪どけの林のなかを歩いてゆくと、ふいにポブが立ちどまり、持っていたレーキで落葉をひっかき、ガリガリと土を掘る。地面に顔をくっつけんばかりに、大きな体を折り曲げて、何かを探している。しばらくすると、だいじそうに小さな土くれをつまみ上げた。それは土の中にできるきのこで、腹菌類や子のう菌類の仲間である。地上に顔を出さないので、見つけるのがむずかしく、まだよく知られていないものが多い。
「いかにして見出すや」
とたずねると、
「このピットをみな。チップモンクが掘った跡だよ」

132

133　胞子の世界

【著者略歴】

小川真（おがわ・まこと）／1937 年、京都生まれ。1962 年に京都大学農学部農林生物学科を卒業、1967 年に同大学院博士課程を修了。1968 年、農林水産省林業試験場土壌微生物研究室に勤務、森林総合研究所土壌微生物研究室長・きのこ科長、関西総合テクノス、生物環境研究所所長を歴任。農学博士。「森林のノーベル賞」と呼ばれる国際林業研究機関連合ユフロ学術賞のほか、日本林学賞、日経地球環境技術賞、愛・地球賞、日本菌学会教育文化賞受賞。2021 年、没。
主な著書に、『カビ、キノコの働き』（小峰書店）、『菌を通して森を見る』（創文）、『マツタケの生物学』『マツタケの話』『きのこと植物』『カビ・キノコが語る地球の歴史』（築地書館）、『キノコの教え』（岩波書店）などがある。

【書誌データ】

書名：ヤマケイ文庫　きのこの自然誌
著者：小川真
発売日：2022 年 1 月 17 日
定価：1,188 円（本体 1,080 円＋税 10%）
判型：文庫判並製
https://www.yamakei.co.jp/products/2821049350.html

【山と溪谷社】　https://www.yamakei.co.jp/

1930 年創業。月刊誌『山と溪谷』を中心に、国内外で山岳・自然科学・アウトドア等の分野で出版活動を展開。
さらに、自然、環境、ライフスタイル、健康の分野で多くの出版物を展開しています。

【インプレスグループ】　https://www.impressholdings.com/

株式会社インプレスホールディングス（本社：東京都千代田区、代表取締役：松本大輔、証券コード：東証 1 部 9479）を持株会社とするメディアグループ。「IT」「音楽」「デザイン」「山岳・自然」「航空・鉄道」「モバイルサービス」「学術・理工学」を主要テーマに専門性の高いメディア&サービスおよびソリューション事業を展開しています。さらに、コンテンツビジネスのプラットフォーム開発・運営も手がけています。

以上

【本件に関するお問合せ先】
株式会社山と溪谷社　担当：綿
〒101-0051　東京都千代田区神田神保町 1-105 神保町三井ビルディング
TEL03-6744-1900　E-mail: info@yamakei.co.jp
https://www.yamakei.co.jp/